

標題 施設外就労で水稻育苗準備作業の労力を補完！

(ダイジェスト)

2月下旬に出雲市斐川町の農事組合法人アグリードいずもが、出雲市の土地利用型の担い手で初めて農福連携による水稻育苗準備作業に取り組み、5月までに13,000枚の育苗箱に育苗マット(※)を入れる作業を行うことにしています。

本法人は昨年2月の合併で経営面積が拡大(R6年経営面積:86ha)したことに加えて組合員の高齢化により労力補完が必要な状況であったことから、NPO法人島根県障がい者就労事業振興センターと連携して福祉事業所とのマッチングを図りました。その結果、出雲市内の就労継続支援A型事業所が水稻育苗準備作業を請け負い、2月28日から作業が始まりました。

作業初日は利用者3人に職員1人が同行し、育苗箱に付着した汚れ等をブラシで払落とし、そこに育苗マットを入れる作業を行いました。利用者はこれまでこのような作業を行った経験はありませんでしたが、法人代表者からの丁寧な説明により手際よく作業を行い、この日だけで約500箱を処理することができました。

この作業は5月まで続き、田植え後には来年産に向けた育苗マット入れ作業も予定されるなど、農福連携に大きな期待が寄せられています。

今回はハウス内の作業であるため天候を気にせずスケジュールが立てられること、床土ではなく育苗マットであるため軽量で且つ汚れ等もなく作業性が良いことがポイントだと考えます。

事業所の方からは「軽量であっても作業の連続から筋肉痛になったが、みんなで作業負担の軽減を図りながら挑戦できて良かった」と好評の声が聞かれました。

今後も双方の目線で各作業を捉え、農業側と福祉側の課題解決を図っていききたいと思います。

※育苗マットとは稲の育苗箱に土の代わりに敷くマットのことです。



写真1：準備された育苗箱、育苗マット



写真2：作業風景